

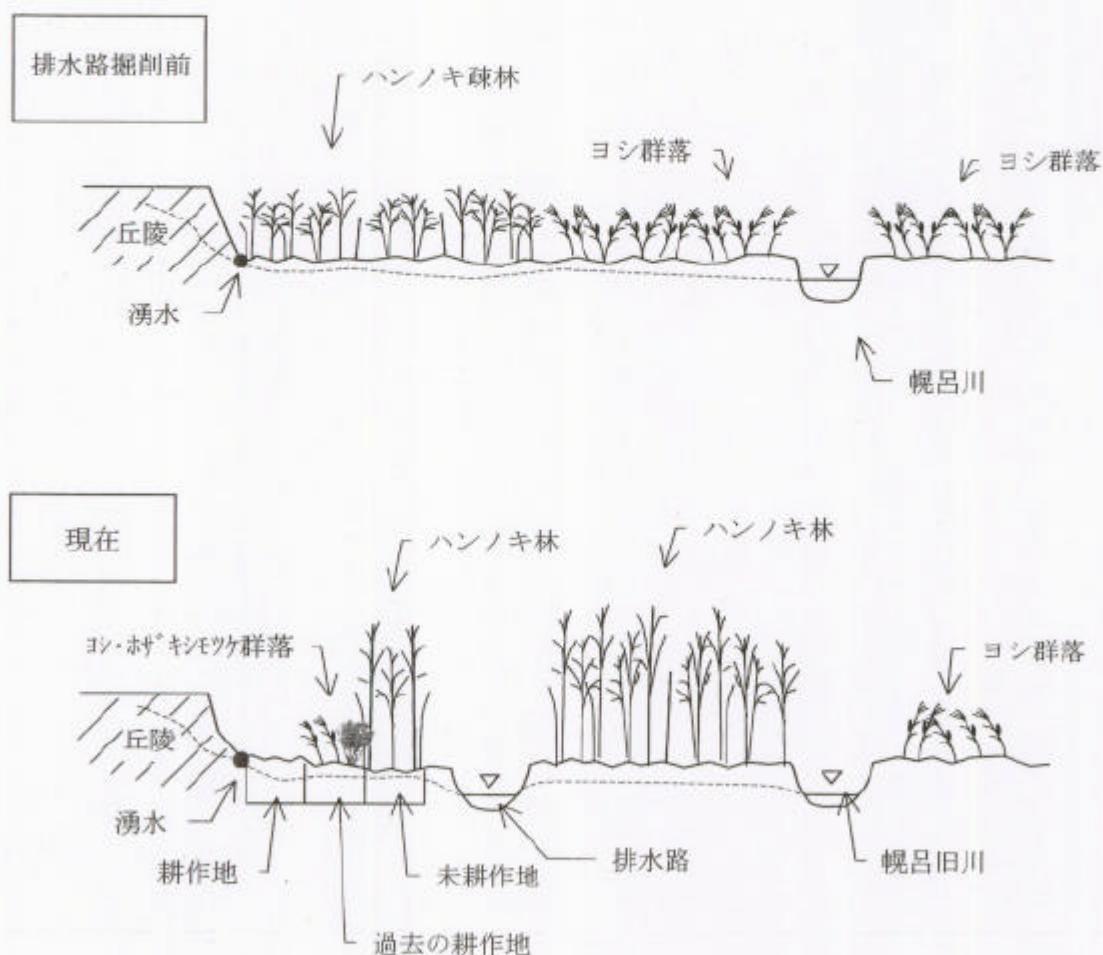
5.3 当地区の自然再生の目指す方向

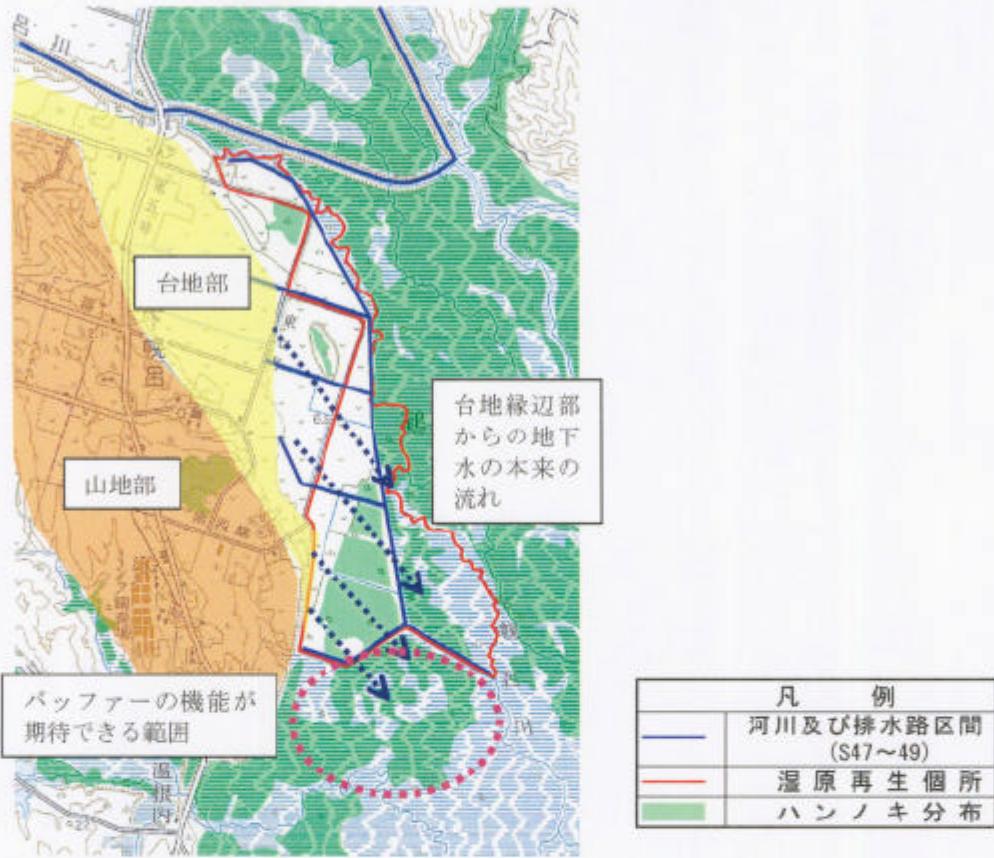
今回の湿原再生箇所周辺は、幌呂川沿川部と台地から湿原に向かう移行帶であり、小さな沢の出口に微高地を作ったり、若干の湧水を受けている区間である。

下幌呂地区では、幌呂川沿川部の湿原環境と台地から湿地までの間の湿原移行帶からなる本来の湿原環境を再現することが重要である。

また、微地形や湧水、排水路、地下水位等の良好な水環境の改善を図る必要がある。

さらに農地と湿原の接点である本地区は、湿原中心部のバッファーとしての機能を持たせる。





- ・排水路が無かった時の地下水の流れは、河道に向かって流下しており、これらが湿原再生箇所以外の下流湿原の水源となっていた。
- ・農地改良事業で設置した排水路は、台地縁辺部からの湧水を集水するとともに、地表付近の地下水も取り込むことで、周辺地下水位を下げている。
- ・排水路は集約されて下流の幌呂川旧川まで導水されており、湿原にとって貴重な水は、湿原再生箇所以外の下流湿原にも行き渡っていないものと考えられる。

以上のことから、下流湿原にとって、今回の湿原再生箇所はパッファーとしての機能が期待できる。

図 5-13 パッファーとしての機能